

県岐商 だより

No. 85

THE KEN-GI-SHO SENIOR-HIGH PRESS

○発行所 岐阜市則武新屋敷 岐阜県立岐阜商業高等学校PTA <http://www.kengisho.ed.jp/>



岐商祭~POP~ 2024.10.29

子育てにおける「卒業」という概念は、人によって感じ方が異なるかもしれませんが、数年前、我が子の高校の卒業式に出席した時、「私にとっての子育ての卒業式だ」と強く感じたことを記憶しています。高校の卒業式は、子どもが成人し、自立の道を歩み始めることを実感する瞬間であり、親としての役割が大きく変わる区切りとなる日でもあります。

自身の子育てを振り返ると、様々な出来事がありました。出産は、価値観や人生観を変える出来事であり、親への感謝の念を芽生えさせるものです。私が1歳足らずの時、父が突然、勤務していた会社を退社し、自動車部品の金型工場を開業しました。父の新たな挑戦は、家計に大きな負担を強いることとなり、母は日々の生活を切り盛りしながら、私たち姉妹の成長を支えてくれました。母の強さと献身には本当に頭が下がります。私自身も子育てを始めると、当時の母の気持ちを少しずつ理解できるようになりました。子どもを育てるということは、愛情だけでなく、忍耐や努力も必要とされることを実感しました。特に、子どもが成長するに連れて直面する様々な問題や悩みは、予想以上に多いものでした。

出産後も仕事を続けることに迷いはありませんでしたが、それは並大抵のことではありませんでした。母の「ひとときも子どものことを忘れるべからず」という教えを守り、仕事と子育てを両立させました。我が子が高校を卒業する瞬間は、確かに子育ての一区切りでした。

高校生をもつ親の役割は多岐にわたります。高校生は「青春」真っ只中であり、これからの人生に夢を膨らませ、成長し続ける時期です。自分は何者なのかを模索し続け、

悩み、もがき苦しむこともあります。親は子どもの気持ちや悩みを理解し、サポートすることが重要です。そのためには、子どもが自分の判断で行動し、責任をもてるようにサポートすることが求められます。親は健全な成長と自立のための基盤を築く手助けをする役割を果たすのです。

義務教育までは「教え身に付けさせる」が教育の基本ですが、高校教育は「興味・関心を伸ばす」ことが重要です。本校では、「ビジネス探究」(総合的な探究の時間)を活用し、論理的思考能力を養い、ディスカッションを通じて問題解決能力を育む教育活動を行っています。

先日、体育館において、2年生の生徒がビジネス探究の学習成果中間発表としてポスターセッションを行いました。「少子高齢化」「観光」「先端技術」など、17のジャンル、100を超えるグループが、理路整然と発表する生徒の姿は圧巻でした。生徒自身が興味・関心のあるジャンルを選び、学科の枠を超えてグループを作り、夏季休業中にはフィール

ドワーク活動を行いました。これらの取り組みは、将来のキャリアや大学での学びに非常に重要な経験となります。さらに、プレゼンテーションやディベートなどの活動を通じて、効果的なコミュニケーションスキルを磨くこともできます。

高校時代は、自己成長と将来の準備に取り組むための貴重な期間です。家庭と学校が連携し、子どもたちが自ら学びを深められる環境作りを、学校は、子育てのパートナーとしてサポートすることを使命としています。保護者の皆様、子育ての卒業式を迎えられるよう、尽くしてまいります。



「子育ての卒業式」

教 頭 下 平 昌 子

目次

子育ての卒業式(教頭)	1	創立120周年記念式典.....	4
全国PTA連合会大会に参加して(PTA副会長).....	2	茶華道部:全国大会2連覇!!.....	4
PTA大学見学を終えて(進路指導委員長).....	2	文化祭PTAバザーを終えて(特別活動委員長).....	4
PTAの広場(各学年会員).....	3	編集後記(研修活動委員長).....	4
ジュニアパンパシフィック選手権に出場して.....	4		

全国高等学校PTA連合会大会に参加して

PTA副会長 水口 靖之

令和6年度 第73回全国高等学校PTA連合大会2024 茨城大会が8月22日・23日に水戸市を主会場にして行われ、「歴史の町で変革を!! ～新たな時代が目に入らぬか～」をテーマに開催されました。本校からは、PTA会長、副会長3名、村山校長と渉外部担当 吉田先生の6名が参加しました。全国から約5,000名を超えるPTA会員が参加し、高校生が演じるアトラクション鑑賞、全体会、分科会、記念講演などが行われました。また、大会の様子はオンラインでも配信されました。私自身こういった全国規模の大会に参加するのは初めてのことで、規模の大きさに衝撃を受けました。

私たちが参加した第1分科会の会場では、茨城県内の3地区の高校代表による「花いけパフォーマンス」が行われました。5分間の制限時間の中で、即興で大きな生け花を活けるというパフォーマンスが繰り広げられました。生徒達が制作した作品はロビーに展示され、これまで生け花というものにまったく触れたことがない私ですが、見事な出来栄に感動しました。

この後、講演として弘道館事務所主任研究員の小环



のり子氏による「藩校『弘道館』の教育」という講演がありました。水戸藩では江戸時代から、彰往考来(しょうおうこうらい)「過去を明らかにして、将来を考える」と学問が推奨されていたそうです。また、幕末期には、大変な時期だからこそ人材育成が大事だと考え、「弘道館」を創設し他藩にも影響を与えたそうです。江戸時代の学びは人々の楽しみや喜びで、自発的な学びだったそうです。この講演は非常に難しい内容でしたが、江戸時代から現代までの教育の歴史を学び、現代の情報化社会ではインターネット等を通じ情報だけがドンドン入ってくる時代なので、自らが『学びたい・会得したいと思う気持ち』を持つことが大切なことだと考えさせられる良い機会となりました。



本校は、今年で創立120周年を迎えた長い歴史を誇る学校です。私も県立岐阜商業の卒業生ですが、私たちの時代と今とは学校の環境も社会情勢も大きく変化しています。特にみなさんは過去には経験したことがないコロナ禍を過ごし、学校行事の中止や会話の抑制、オンライン学習など不安を抱えながらの学校生活を送り辛いこともたくさんあったと思います。しかし、今も昔も変わっていない本校の校訓『不撓不屈』の精神のもとで過ごし学び、そしてともに苦難を乗り越えた仲間との高校生活は必ず皆さんの大きな財産となるはずで。予測困難な時代に突入する中、この県立岐阜商業で悔いのない充実した3年間を過ごし、自分の明るい未来に向かって突き進んでください。今後のご活躍を楽しみにしております。

大学見学会に参加して

進路指導委員長 菊池 紀子

進路指導委員会のメイン行事として、6月に大型バスを2台借りて大学見学会を行いました。多くのPTA会員の皆様にご参加いただき、愛知大学名古屋キャンパスと愛知淑徳大学長久手キャンパスへ行って参りました。

午前中に訪れた愛知大学は地上20階建の本館の他、講義棟・厚生棟・グローバルコンベンションホールから構成される都市型キャンパスです。名古屋駅から徒歩約10分、あおなみ線ささしまライブ駅からは歩行者デッキ直結という立地の良さには驚きました。

職員の方から各学部・学科のカリキュラムや取り組み、愛知大学ならではの特色ある学びについてお聞きした後4



つのグループに分かれ学生さんの案内でキャンパス内を見学しました。その後、落ちついた雰囲気のキャンパスレストランにてランチタイムです。各自好きな物を選んでお腹を満たしました。

午後からは愛知淑徳大学です。広い敷地の中に多様な建物が何棟もあり、加えて2025年度より12学部14学科16専攻になることで、広い分野でより専門性の高い学びが出来る大学と感じました。愛知大学とは全く違うのどかな雰囲気のキャンパスもまた魅力的でした。

参加された皆さんは職員の方や学生さんのお話を真剣に聞き、メモを取ったり質問をされたり、大変有意義な見学会になりました。

またバスでの移動中はわが子たちの学校生活や進路のことなど情報交換ができ、貴重な時間となりました。来年度もぜひ多くの方に参加していただけたらと思います。

ご多忙な中で見学先選定や計画、当日引率してくださった先生方と、迎え入れてくださった愛知大学様・愛知淑徳大学様に深く感謝申し上げます。



試練を乗り越えて・・・

1年生会員 谷口 亜里

今年はスポーツ界で日本人選手の活躍が目立ち、たくさんの勇気と感動をもらいました。その中でもオリンピックでの日本人の活躍やMLBの大谷選手の活躍は目を見張るものがありました。活躍した選手に共通していたことは、怪我をしながらも最高の結果を残したということです。最後まで絶対に諦めない!! その精神を貫く姿勢は日本中の子どもたち、そして我々に勇気を与えてくれたと思います。

息子の話になりますが、硬式野球部に入部して間もなく試合中に怪我をしてしまいました。これから頑張るぞという時でしたので、本人はショックだったと思いますし、こちらも見ている心が苦しくなりました。

しかし、この試練には得るものが必ずあって無駄ではないと信じ、全力でサポートすることを決意しました。息子自身も復帰するまで、我慢強く地道に頑張っています。練習の補助をする側になってサポートする大変さを知り、そして周りの人に支えてもらってきたこと、今まで普通に野球ができていたことに感謝するようになりました。悔しさがある中で、貴重な時間を経験してとても成長したと感じています。

中学時代の恩師から「試練は耐えられる者にしか与えない」という言葉をいただきました。息子はこの言葉をずっと大切にしてきました。試練を乗り越えたその先に見えるものは、必ず明るいものであると信じています。

さあ、来年は皆さんに恩返しをする番です。応援しています!!!

夢に向かって

2年生会員 神田 里枝

幼児の頃から美容師になる夢を持っていた娘は、高校を卒業したら専門学校へ、そしていずれは自分の店を持ちたいと、商業知識を得るために県岐商へ入学しました。親としては娘の夢を応援するつもりだったので、良い高校を選択したなどと思っていました。ただ、運動の不得意な娘が、運動部が強豪のイメージのある県岐商でなじめるかが心配でした。幸い文化系のLOB部に入って、部活動でもクラスでも友達と楽しく過ごせていてホッとしました。勉強についてもコツコツ

学習を続けた結果、好成績を維持していて充実した高校生活を送れていて良かったと思いました。

2年生になって美容師の夢の他に、保育士・幼稚園教諭になる夢が芽生えてきました。どちらの夢で進むのか今迷っているところですが、夢の選択の手助けになるよう情報を探すなど協力しようと思います。子供が夢を決定したら本人の意思を尊重して、応援しよう...

思い返すと自分が高校生の時、何となく勉強して何となく大学へ進学して、方向性も分からないまま就職しました。それを想うと、自分の将来について懸命に考え模索している娘を誇らしく思います。これも県岐商での教えが娘の中に根付いているからなのでしょう。

娘へ あと一年充実した高校生活を送って、県岐商での経験が将来誇れる思い出になってくれるといいね。今悩んでより良い人生を送ろう!

感謝

3年生会員 近藤 誠子

中3の夏、「勉強したいから野球はやめる。」と言う息子に愕然とした。何故なら、息子以上に野球というスポーツに力を注ぎ必死になって支えてきたからだ。しかし、「県岐商に行く。」という思ってもいない言葉を聞き「え? 野球続けるの?」と聞き返すが「野球はやれんやろ。」と後ろ向きな言葉に情けなさを感じた。見事、県岐商に合格し、1ヶ月が過ぎるころ「野球やる!」と、とんでもない言葉にまた啞然とした。私は気持ちを切り替えていたため野球は頭になかった。「そんな簡単じゃない、県岐商をなめんなよ。」と言ってやった。私は県岐商のOBであり、上下関係の厳しい部活動、学校生活は経験済みだった。そんな親の言葉をよそに、息子は覚悟を持って練習に励んだ。県岐商生中心の生活に、私も兄弟たちも黙って見守ることしかできなかった。

鍛冶舎監督はじめ先生方の懸命の指導、先輩や仲間を支えられ、息子なりに必死にしがみつき努力した結果、3年の夏には背番号を付けて大舞台上でマウンドに立つことができた。その姿を見て感動し、成長を感じた。

県岐商という学校を選択し、野球部に入部した決断は本当に良かったと思う。出会った人たちに感謝を忘れず、大事にしてほしい。そして不撓不屈の精神で今以上に大きくなってほしい。

楽しい高校生活をありがとう!!

ジュニアパンパシフィック選手権に出場して 水泳部 (3-C) 吉永 晴香

今回、初めてジュニア日本代表として国際大会に出場しました。この大会の選考基準は、オリンピック選考会を兼ねた国際大会代表選手選考会の18歳以下で一番になることでした。自分は無理だと思っていましたが、自己ベストを更新し代表に内定しました。内定したことを聞いた時はとても驚いたし嬉しかったです。しかし、4月初めに右膝半月板を損傷してしまい歩くのも厳しい時期がありました。代表辞退かと思いましたが、リハビリ治療を集中的に行い、何とか大会に間に合わせる事ができました。そして本大会、結果は100m自由形で8位、メドレーリレーで3位でした。リレーではアンカーを任せられるほど緊張しましたが、3位でゴールできてとても嬉しかったです。初の国際大会でベスト更新を目標に、挑戦する気持ちで挑みました。思ったような結果を出すことはできず、世界のレベルの高さと海外でベストを出すことの難しさを感じました。ただ、日本代表として戦えたことは私の一生の宝物です。

大会が終わるとパーティーがあり、そこでいろいろな国の人と服やバッジなどを交換し交流をしました。ほとんど英語

は話せないのですが、片言の英語やジェスチャーを使って交流しました。この時、しっかりと英語を勉強しておけばよかったと深く後悔しました。

競技は小学5年生の頃から水遊び程度でやっていました。中学生の頃コロナが流行し、小さいころからやっていたバドミントンの練習ができなくなったことがきっかけに、水泳だけをするようになりました。たくさん泳ぐようになり、気付いたらタイムも早くなって中学3年生の時に全国大会に初めて出ました。高校ではシニアの全国大会に出たりナショナルチームに入れていただいたり、ジュニア日本代表として大会に出場するという、想像していなかったところまでやってこられました。一旦競技は辞めますが、今までの水泳での経験や海外での経験を生かして、新しいことに挑戦していきたいと思っています。



創立120周年記念式典

本校は明治37年に開校され、以来「不撓不屈」の校訓のもと120年の歳月が流れました。11月23日(土)本校体育館において、栄えある岐阜県立岐阜商業高等学校の120周年記念式典が厳かに挙行されました。



記念事業一覧

- I 体育館ステージ幕の新調
- II 部活動強化支援マイクロバス(ヒノハタ号)1台
- III 同窓会会員名簿作成
- IV 創立120周年記念誌作成

茶華道部: 全国大会2連覇!!



京都市の池坊会館で開催された、高校生の生け花の腕前を競う「Ikenobo 花の甲子園 2024」の全国大会において、本校茶華道部の2年生女子生徒3人で作る「花ふふむ」が2連覇を達成しました。この大会で3度の優勝を果たしたのは、県岐商が初めてです。

文化祭PTAバザーを終えて

特別活動委員長 富田 洋子

10月29日(火)、岐商祭が行われました。本部役員を中心に1ヶ月程前から準備を進め、備品の確認や食材の注文等を行いました。

当日は、本部役員12名、常任委員長4名、特別活動委員14名、お手伝いを引き受けていただいた保護者の方15名、総勢45名で調理を開始しました。提供商品は、カレーライス、焼そば、フランクフルト、唐揚げの4種類を用意しました。各担当に分かれ、皆さんが手際よく作業していただけただ陰で遅れることなく子どもたちに商品を受け渡すことができました。商品もほぼ完売し、当日販売の分もたくさん買っていただけました。

途中で子どもたちの発表も見ることができました。お揃いのクラスTシャツを着たり、男子は女装をしてお化粧までしていたり、女子もかわいらしい格好をされていて普段とは全く違う様子で、それぞれダンスをしたり、コントをしたり、文化祭をとても楽しんでいる様子が伝わってきました。コロナ禍を過ごしてきた子どもたちにとっては仲間たちとの貴重な思い出になったことだと思います。

午前中は曇り空でしたが、午後からは雨が降ってきてしまいました。そんな中でも、皆さんに最後まで作業していただけたお陰で、問題なくバザーを終えることができました。

ご協力いただきました企業各位に感謝申し上げますと共に、運営にご尽力いただきました先生方、PTA、保護者の皆様、本当にありがとうございました。来年度も更に充実したバザーになる様、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



思っています。これからも一緒にいられる時間を大切に、成長していく姿を見守りながら、支え合い、感謝の気持ちを忘れずに歩んでいきたいと思っています。

研修活動委員長
渡邊 梨奈
「県岐商だより」
第85号をお読みいただきありがとうございます。

